

## 【知立市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末を活用することで、教師が教えるインプット中心の授業から、子どもが学びとるアウトプット中心の授業への転換を図る。

「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・発信」という探究的な学びのサイクルの中に、体験やICTによる個別学習・協働学習を効果的に取り入れ、多様な方法で情報を活用できる情報活用能力を育成する。

また、狭義の「情報モラル教育」から「デジタル・シティズンシップ教育」への転換を目指し、ICT機器をよりよく活用しようと絶えず考え続ける子を育成する。

#### 2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期を経て、1人1台端末を授業の中で使用することは特別なことではなくなった。

端末を使用しない授業ももちろんあるが、端末を使用することで、次のようなことが容易にできるようになった。

- ・挙手や板書を必要とせず、全員の考えを一瞬で共有すること。
- ・他の人の考えを参照して自分の考えと比べ、自分の考えを見直し、さらに広げたり深めたりすること。
- ・共同で作業を行い、考えをまとめたり、成果物を作ったりすること。
- ・活動や成果物を写真や動画に撮影し、振り返りや次の活動に生かすこと。

一方で、次のような課題も挙げられる。

- ・端末の用途がインターネットを使った情報収集や意見の共有だけに留まっていて、探究的な学びのための効果的な端末活用に至っていない例が見られること。
- ・ICTの適切な使い方を考える場の設定や経験が不十分であること。
- ・1人1台端末を学習活動の評価や家庭学習に生かしきれていないこと。
- ・教職員／学級／学年／教科／学校の間で端末の使用頻度や習熟度の差が大きいこと。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

上記2で挙げた課題を解決し、よりよい端末の利活用を進めるために、以下の項目について重点的に取り組む。

- ・市で実施する「知立市GIGAスクール構想状況調査」や全国学力学習状況調査の学校調査の結果から、市や各校の課題を捉えられるようにする。
- ・先進的な地区や学校の授業公開や研究発表などに、市内の教員が参加するよう促したり、自主的な研修についての情報提供を行ったりする。
- ・市の会議（校長会、教頭連絡会、教育課程研究推進委員会、情報教育研究推進委員会など）や研修講座、各校の現職教育における探究的な学びのための効果的な端末活用についての研修機会を確保し、研修内容を充実させる。
- ・研修資料や市内の有効活用事例を共有する。
- ・ICT支援員の支援により、教員や児童生徒の端末利用の習熟度を高める。